

編集後記

ここに『言語と文化論集』(13号)が上梓されました。今回ほど原稿の集まりが悪いことは未だかつてありませんでしたが、指導教授の先生方のご協力で、無理のない点数が集まり、どうにか刊行に漕ぎ着け、編集委員として、喜ばしく思っています。これからも、博士課程後期の大学院生の数多くの皆さんが、学究として本格的に書き出す最初の論文として投稿してくれることを願ってやみません。

課程博士について言えば、これまでに中国言語文化専攻課程から、文学系が1名、言語系が4名の課程博士が誕生しています。喜ばしいことに、待望の博士第一号が英語英文学専攻課程から出ました。そして、更に喜ばしいことに、英語英文学専攻委員会現主任の石井美樹子教授の尽力のおかげで、大学当局の理解が得られ、対象論文を単独で発刊することができました。『言語と文化論集』の「特別号」として、濱田あやの氏の学位論文 (*Women in the Days of Shakespeare and His Plays—Education, Eloquence and Marriage*) が今年の平成18(2006)年10月に刊行されました。この出版が良き前例となり、これからも博士学位論文の単独発刊が慣例となるはずです。両専攻課程から、将来性の豊かな博士たちが次々と生まれることを希求します。

(編集委員 橋本 侃)

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を終了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出のこと。

- (1) 長さは、日本語・中国語の場合は2万字程度、その他の言語の場合は、A4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。
- (2) 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の氏名を明示する。

(例)

Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hun mong ja hoe KANAGAWA Hanako

- (3) 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。
- (4) 提出するフロッピーディスクに、氏名・住所・電話（ファックス/Eメール）番号と、専攻（課程：修了年次・在学年次）、論文標題、使用ソフト名を記した一覧表を別文書として製作し、ハードコピー（1部）と共に提出のこと。ワープロの場合は、機種名・版数などを明記のこと。

(例)

神奈川太郎 神奈川大学大学院英語英文学専攻博士前期課程2年

神奈川花子 神奈川大学大学院中国言語文化専攻博士後期課程修了

4. 締め切り：10月31日

(執筆予定者は夏期休暇以前に編集委員に提出論文の概要と、予定字数を予告すること。)

**神奈川大学大学院
言語と文化論集 第13号**

2007年2月 印刷

2007年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究科
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

製 作 株式会社 野毛印刷社